

東大見学会：感想文

①ダイレクトフォース

今回私は三菱商事の本社ビルを訪れ、三菱で現在活躍されている社員の方・会社の発展に貢献されてきた元社員の方々から、会社紹介を始めとし様々なことを学びました。

東京駅から歩いてほど遠くない本社ビルは、見たときから建物を出るまで終始清潔感のある空間という印象を受けました。エントランスや通路、窓ガラスは綺麗に保たれていて、日本を代表する大企業の細かなところまでも配慮する姿勢を感じました。

全体の会社紹介では、私達にとって身近ではありますが、具体的にはよく分からない総合商社の特徴について、「ラーメンから航空機まで」という至極分かりやすい例えを用いるとともにビジネスモデルの変化によって生まれたということを教えて頂き、大変勉強になりました。

仲介貿易の事業から、投資により技術や設備などの生産手段を会社に取り入れることにより、国内外の 90 カ国に 200 以上の拠点をもち 600 社を超える連結対象会社とともに全体で 7 万人ほどの従業員を擁する会社に発展し今に至るということを知り、私はとても驚きました。

また、各部門で活躍されている方々からの講話からは、普段の何気ない日常を支えてくれる姿や、国内外に手を差し伸べる姿など「商社」という言葉でまとめることの出来ない会社の姿を知ることが出来ました。

一番印象に残ったのは、金属資源ビジネス部門の方の、モザンビークという遥か遠くの国で三菱商事が同国の国家再建プロジェクトを進めているという話でした。今ではアルミ製錬はモザンビークの主要な産業となっていて、国の全輸出額の 50%をも占める産業となっていることを知り、三菱がモザンビークにとって国家の発展に非常に貢献した存在であることが分かりました。また、大規模な工場があることにより 1 万もの雇用を生んでいることを知り、現地の住民の豊かな生活を作ることだけではなく従業員としての教育訓練・人材育成を通し文化の面でも向上させているのではないかと思います。

更に工場の操業による住民への CSR だけではなく、学校や診療所の建設や市場を設けることなどを行っていることも分かり、地域の人と共に発展するような良いサイクルの会社の姿を見ることが出来たと思います。

最後に話されていた私達への 3 つのメッセージは私の中にとっても響くものがあったと思います。

・「迷ったら挑戦」という言葉はこれから待ち受ける様々な困難や自分をステップアップさせる機会を逃さないことを意識させました。

・「世界の中の日本を意識」という言葉は国内にいと陥ってしまう「日本」に対する「外国」という狭い視点から、世界を構成する様々な国々の一つが「日本」であるというグローバルな考えに私の視点を再度広げてくれました。

・「“違う” ことを受け入れる」という言葉は国内外に対してだけではなく、様々な人と接し続けながら生活していくことにあまり慣れない私がいつも心掛けていた言葉でした

東日本大震災の復興に携わる方からは、三菱という会社として・三菱の社員として助けて頂いていたことを知り、私は直接的な被害は被っていませんが地域の住民として嬉しく・有り難く感じました。三菱は自治体への支援、学生への奨学金、助成金など会社として被災地への合計 100 億もの支援金とともに、社員として 3700 人もの復興支援のボランティアも派遣して下さっていると分かり、温かみを感じました。

新たな産業を生み出したりといった事業を知るにつれ、「地元との信頼関係」を大事にする三菱商事の復興に対する真摯な姿勢を学ぶことが出来ました。

②企業大学訪問について

今回私達は医療分野の企業大学を訪問するという事で等潤病院を訪問しました。

病院に到着した後、会議室にて私達は院長先生から病院の理念や特徴を説明して頂きました。とても丁寧に説明して下さり、あまり馴染のない病院の形態や病院の取り入れている設備について理解することが出来ました。等潤病院は地域とともに生きる慈しみのトータルヘルスケアという理念を掲げる病院で、慈生会という社会医療法人社団に属しています。慈生会には等潤病院の他にも健診センターや訪問介護、訪問・通所リハビリテーション、老人介護施設など様々な機関があり、それぞれが連携を取ることで、地域を包括的に支える仕組みが出来ていることが分かりました。

また、病院の特徴として ICT を活用した情報連携を進んで取り入れていることと、最新の医療設備を用いていることが挙げられます。医者同士の情報の共有が難しかった従来のアナログのカルテを電子化することにより、情報共有をスムーズに行うことを可能にしたそうです。加えて、患者さんは自分の PC などの端末で自分の症状や検査結果、薬剤情報を確認できるため、とても便利なシステムになっているそうです。

もう一つの特徴として 320 列 CT スキャナと 3 テスラ MRI、血管造影装置などといった最新の医療設備を導入していることがあります。現在主流の CT スキャナは 16 列、MRI は 1.5 テスラであることから、日本で最高水準の設備でことが分かります。

また、当病院は災害拠点病院として震災へ備え、地元の方々（自治体）と協定を結んでいるそうです。病院は怪我をした人々の手当などを行い、地元の方々は救護所のテント張りや食事の準備などを協力して行うというものだそうです。

医者らは自身も被災している中で、自分の責務・与えられた使命を果たすことが大切だと、それ以外の方々も「自分のやれることをやる」ことが大切になると仰っていました。

訪問の最後に院長先生は医師を志す学生に、道を進んでいくと人間関係が狭くなるので学生のうちに様々な人と触れあい豊かな心を育むことで人間として成長して欲しいと仰っていました。そして、医者として仕事をして嬉しいことは患者さんが回復しニコニコとした笑顔になることだと仰っていました。

私は実際に現場をみて直接聞いて学ぶことにより、事前調査では到底得られないことを学ぶことが出来、とても勉強になりました。等潤病院の先生は私達の理解のしやすい言葉を選ぶように分かりやすく説明して頂き、質問などにも丁寧に答えして頂いたため、大変良い貴重な体験となりました。

④東大見学会

東京大学という日本を代表する大学を見学し、実際に見て、学生に聞くことで実際に体験して学ぶことはインターネットなどを用いた調査に勝ると改めて見学会を通して実感しました。志望校を決める際は実際に訪れて校風・周囲の環境を肌で感じるといったことが大切だと感じる機会となりました。

私は、医学部は学んだり調べたりする機会が多かったので今回は理学部を中心に見学しました。結果として、興味のある分野だけではなくそれに関連したことを中心に視野を広げることが出来たと思います。パネル展示となっていたため、学生と直接話が出来てとても有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。

大学全体の印象としては国内の大学一の蔵書数を誇る図書館で自分の研究に没頭したり、多くの人と交流したり様々な過ごし方が出来てしまうととてもいい環境だと率直に感じました。大学受験に関しては、とても集中して根気よく行っていたと話していたのでその言葉を大切にして勉強に励んでいきたいと思います。

今回は東京大学のオープンキャンパスに行きましたが、京都大学など他の大学にも興味が湧いたので、しっかりと色々な大学の特徴を調べて今後の進路選択に役立てたいと思いました。